

# 【2016年3月5日（土）開催の市民フォーラム】 「岡崎の医療をみんなで考える！～自分のくすりについてもっと知ろう～」

参加者の皆さまには多くのご意見・ご質問をいただき、ありがとうございました。  
講師の青木裕明先生にご回答をいただきましたので、以下参考にさせていただければ幸いです。

1

- ジェネリックは100%同一ではないという事か？
- ジェネリック薬品が先発品と本当に効力が同一か否か？
- ジェネリックの中で効果の違いはどのくらい明確になっているのか？
- 薬局によって薬のメーカーが違ってくることへの不信感有。
- 週刊誌等で、医師はジェネリックを自分自身では使用しない。何故なら、許可されたのは最初の薬であって、作り方の違うジェネリックではない（成分がジェネリックは違う）と見た。

効果を発揮する「薬の成分」については100%同一です。

効果の成分は微量（ $\mu\text{g}$ ,  $\text{mg}$ 単位）なので患者が使用するには少なすぎるため、賦形剤（かさ増しするもの）や、錠剤の形にするための糊剤、服用しやすくするための矯味剤、色をつけるための着色剤などが混ざっています。賦形剤、糊剤、矯味剤、着色剤などの配合成分が異なるため「ジェネリックは別物」と考える傾向がありますが、これらのものには薬理作用（体への効果）がありません（製薬会社では厳しく安全性試験を行っています）。また、薬が溶ける速さや体に吸収される速さや量、血液に入っていく量についての試験を行って、先発品とほぼ同等の結果が得られているため、厚生労働省から薬効（薬の効果）が同等の医薬品として認可されています。つまり、味や色が変わっても本来の薬の成分は全く同じもののため、体への効果はジェネリック医薬品でも変わりありません。

服用感、使用感、先入観、服用環境、体調、風評などの影響を受けた状態でジェネリック医薬品を服用することで、効果の発現（効き方）に違和感があるご意見が多くあるのも事実です。しかしながら、薬は患者個人へのオーダーメイドではなく、多くの患者へ平均的に効果が出るように作られています（レディメイド）。「今までと違う」、「効きが悪い」、などの意見を聞くことがありますが、薬同士を比較した効果の誤差よりも、服用感、使用感、先入観、服用環境、体調、風評などによるものの方が遙かに影響が大きいのです。

2

- ジェネリック薬は患者が選ぶの？ 医師が決定すればよいのではないか（患者は薬の内容はわからない）
- 自分がジェネリックにしたいくても医師によると思う。

患者がジェネリック医薬品の銘柄を選択するわけではありません。ジェネリック医薬品に変更する意思表示をお願いします。これまでも医療費抑制のために国の政策でジェネリック医薬品が推奨されてきましたが、医療者に任せていたらほとんど政策が進まなかったのです。医療を受ける患者からジェネリック医薬品への意思表示をして欲しいというのが意図です。

3

- ・院外処方薬局はかかりつけ薬局になりうるのか？ 土日祝が休みのところが多い。

全ての薬局が対応することはほぼ不可能です。

しかしながら 国が目指す医療体制の整備に合わせて、薬局機能が求められる時代に変化していきます。

「かかりつけ薬局」とは国民対全ての薬局を念頭に置いているのではなく、患者個人とその薬局・薬剤師との関係を主眼にしています。土日祝が休みの医療機関は薬局以外でも存在しますが、かかりつけ薬局機能については厚生労働省などの指導により国民医療に役立つ方針です。

4

- ・何種類も飲んでいるのでジェネリックにしたいのだが言い出せない。薬剤師から「ありますがどうしますか」と聞いてもらえたら頼みやすいと思う。
- ・医師の処方箋の薬について薬剤師に（例えば）副作用について相談したら変えてもらえるのか？ 残っている薬についても調整してもらえるのか？
- ・医師や薬剤師の選びは簡単ではない、医者にわからない薬、薬で心配していることを告げれば告げるほど面倒くさそうな・・・神経質な人だなあ、みたいな感じになる事が多かった。

患者からの訴えを医療者に伝えるのも薬剤師の仕事です。是非薬局薬剤師に相談してください。

残薬の調整も行います。

5

- ・薬効についてとか、飲み方とかもっと聞いてみようか、とか思った。
- ・副作用と他の薬との併用による害が気になる。
- ・骨密度、コレステロールの薬を長く飲んでいるが、飲み続けて大丈夫なのか？
- ・高血圧の薬は10年以上利用（135/65）。死ぬまで続けるべき？
- ・副作用と飲み合わせについてとても関心がある。気をつけて服用している。
- ・薬を飲むとリスクがあるそうですが、よくわかりません。
- ・医者にかかる度に薬がどうしても多くなり、どうしても不安だ。
- ・薬疹がでたら、次からはその薬は飲めなくなるのか？
- ・服用している量と効能、体へのダメージ。患者も薬の効き目について医師や薬剤師に説明することも大切かと思った。

ほとんどの薬剤師が皆さんの不安や疑問、治療に対する思いにできるだけ耳を傾けていると思います。遠慮なくどんどん言葉をかけてください。そして信頼できる「かかりつけ薬剤師」を見つけてください。

6

- 定期的に通院して処方箋にて薬をもらってきませんが、薬手帳がすぐにいっぱいになって、何冊にもなり、以前の手帳は処分していいのか？

何年も薬が変わっていない場合は処分して頂いてもかまいません。

頻繁に薬が変更になる場合や、体調の変化が大きい場合は別に記録していただくか、最新のお薬手帳に記載して頂ければ良いと思います。ただし、処分するときには個人情報の流出に十分気をつけてください。

処分に困ったときには薬局・薬剤師にご相談ください。

7

- 便秘の薬を飲んでいるが、処方時に牛乳では飲んではいけないと説明を受け、ヨーグルトを整腸のために食べたいのだが大丈夫なのか？

牛乳やヨーグルトをずっと摂ってはいけないということではありません。大腸が中性のため一部の便秘薬は中性になると溶けるように作られています。胃の中は強い酸性なので胃では溶けないはずですが、牛乳と一緒に飲むと胃酸が薄まったり、胃酸が出にくくなったりして中性にかたよることで、胃で溶けることがあります。また、ヨーグルトなどの乳製品には整腸作用があるものが多くお通じをよくするといわれていますが、牛乳同様、便秘薬と一緒に摂るのは避けてください。便秘薬の服用前後は1時間以上空けてください。

8

- 夕食後の薬をすぐに飲まず、寝る前に飲むことが多いが、効果がなくなってしまうのか？
- 薬を飲み忘れたときは飲んでくださいと医師に聞いた。たくさん飲まないことも大切。すべて薬剤師をもう少し利用し、聞くことが大切なことが分かった。

医薬品の中には服用時間を明確に指定されているものがあります。もちろん服用時間を変更しても影響のない薬もあります。薬によって服用条件が異なりますので薬剤師に相談ください。

9

- 薬の受け取り期限は4日間だが、忘れたときに薬剤師の判断で薬を出してもらえるように法改正を希望する。

医師は処方せんを発行する際、患者を診察した「そのときの症状」に合わせて処方します。日にちが経ってしまうと症状が変わってしまい、薬を飲んででも症状に合わない可能性があります。処方せんに有効期限が定められている理由は、4日あれば土・日をはさんでも薬を受け取れる可能性が高いことと、病状は刻々と変わっていくものであり、診察を受けてから時間が経過すればするほど必要な治療が変わってくる可能性が高くなるためです。そのため、基本的には処方せんは発行された直後に薬局に行き、その日から薬の服用を開始します。

- お薬手帳は旅行には必ず保険証と一緒に携帯している。

万が一もない方が良いのですが、それでも旅先で何があるかわかりません。

最近では救急車の中でもお薬手帳を確認することがあると聞きます。

是非、これからも忘れずに携帯してください。